



職員の人材交流

ープロジェクト報告ー

第3回大学情報サミット大会

2008年12月22日(月)

慶應義塾大学・北館ホール



人材交流プロジェクトの目的

- 2007年からの継続プロジェクト
- 大学情報部門の共通課題
 - ➡ 人材育成をいかに効率的に行うか
- 解決のための一助としての人材交流
 - ➡ 情報技術や情報部門運用に関する知識・スキルの共有化の促進
 - ➡ 将来的には、企業との人材交流も視野に入れた、各大学共通の教育プログラムの作成を目標とする



2008年実施プログラム

- 人材交流プログラム(3回)
 - 各大学が受入校となり、大学情報サミット参加大学の職員を一定期間受け入れる。
 - 各大学が参加しやすいプログラムを意識する
 - 固定メンバーの研修と自由参加枠を用意する
 - グループディスカッションをとりいれる。
 - 第1回2008年7月実施(受入大学:早稲田大学)
 - 第2回2008年9月実施(受入大学:慶應義塾大学)
 - 第3回2008年10月実施(受入大学:明治大学)

第1回 早稲田大学受入 2008/7/7~2008/7/11

		AM			PM		
7日	月	10:00	10:10-11:00	11:00-12:30	13:30-13:40	13:45-15:30	15:30-17:00
		集合	研修概要・ISMS説明	早稲田大学の情報化戦略	昼ミーティング	MNC組織・授業運営説明	施設見学・説明
8日	火	10:00	10:10-12:30		13:30-15:00	15:00-17:00	
		集合	DCC (Digital Campus Consortium)・遠隔教育センター説明		インフラサービス/ITCについて	早稲田ポータルオフィス(WPO)業務体験	
9日	水	10:00	10:00-12:30		13:30-16:00		16:00-17:00
		集合	早稲田総研インターナショナル見学・説明		教学・法人系システム		意見交換会
10日	木	10:00-10:30		10:40-12:10	13:30-14:30	14:30-15:30	15:30-17:00
		フロントオフィス/バックオフィス(FO/BO)について		FO/BO定例会議参加	テーマ①利用者支援窓口	テーマ①利用者支援窓口	意見交換会
					早稲田大学の現状説明	参加大学の現状説明	
11日	金	10:00-11:00		11:00-12:30	13:30-15:30	15:30-16:30	16:30-18:30
		テーマ②授業支援ポータル 早稲田大学の現状説明		テーマ②授業支援ポータル 参加大学の現状説明	意見交換会	人材交流報告書作成	懇親会

※色付き部分は自由参加が認められたプログラム

第2回 慶應義塾大学受入 2008/9/16～2008/9/19

		AM			PM			
16日	火	10:00	10:10-10:30	10:30-11:30	12:30-13:30	13:00-14:00	14:00-15:30	15:30-17:00
		集合	事務連絡・紹介	慶應義塾ITCの使命・役割・目標(1)	慶應義塾ITCの使命・役割・目標(2)	KISHについて	共通認証システムについて	三田キャンパス施設見学・説明
17日	水	10:00	10:10-10:30	10:30-11:30	12:30-13:30	13:30-15:30		15:30-17:00
		集合	事務連絡・挨拶	教育支援システム紹介	ソフトウェアライセンス管理	事務系システムにおける新しい取組み		地区ITCの役割と担当業務
18日	木	9:00	9:00-9:30	9:30-11:30	- 13:30	13:30-15:00	15:00-15:30	15:30-17:00
		集合	移動	SFCキャンパス見学	日吉に移動	日吉キャンパス見学	矢上へ移動	理工学ITC見学
				SFC概要説明と見学		日吉キャンパス概要説明と見学		矢上キャンパス概要説明と見学
19日	金	10:00	10:10-10:30	10:30-11:30	12:30-13:30	13:30-14:30	15:00-17:00	17:00-19:00
		集合	連絡事項	一貫教育校支援	テーマ:情報基盤サービスについて 慶應義塾大学の現状説明	テーマ:情報基盤サービスについて 各大学の現状説明	意見交換会	懇親会

※色付き部分は自由参加が認められたプログラム

第3回 明治大学受入 2008/10/14～2008/10/17

		AM		PM			
14日	火	10:00	10:30-12:00	13:00-14:00	14:15-15:15	15:30-16:30	16:30-17:00
			①情報基盤本部(明治大学の情報基盤戦略)	②携帯電話講義システム	③Oh-olMeiji System	④図書館システム	予備
15日	水	10:00	10:30-12:00	13:00-14:00	14:15-15:15	15:30-16:30	16:30-17:00
			⑤教育振興系システム / Web履修システム	⑥人事システム	⑦明治大学のe-learningへの取り組み		予備
16日	木		10:00-12:00	13:00-14:00	14:15-15:15	15:30-16:30	16:30-17:00
			⑧Suica学生証	⑨明治大学ネットワークリブレース	⑩テーマ別ディスカッション・意見交換		予備
17日	金	10:00	10:00-12:00	14:00-16:00			16:00-17:00
			⑪生田キャンパス見学・キャンパスストレージシステム	⑫和泉キャンパス見学			予備

※色付き部分は自由参加が認められたプログラム

※明治大学では、すべての枠を自由参加にしたこともあり、参加者が多かった。



参加状況

	固定メンバー		自由枠参加	合計
	全日参加	一部参加		
第1回	1	3	4	8
第2回	1	2	3	6
第3回	1	1	10	12
合計	3	6	17	26

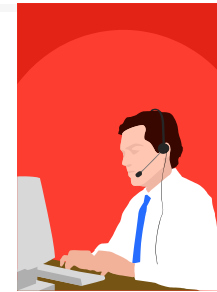


ディスカッションの実施

- 受入大学の紹介だけでなく、グループディスカッションを行い、各大学の事情や問題点を出し合い、現場職員の「生の声」を共有した。
- 「情報」という枠にとらわれず、大学職員として今後の大学の動向をふまえた議論となり、参加者からも「有意義であった」との声が多く聞かれた。

利用者支援窓口

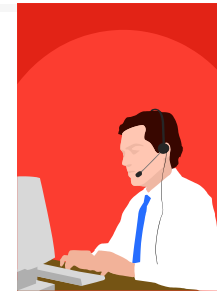
各大学の事情の紹介と意見交換を実施



- ☑各大学ごとに特徴があると同時に、キャンパス間でのサービスの違いなどについては共通の課題として認識される。
- ☑24時間365日のサポートが実現できている大学もあるが、人的・質的向上など、今後もユーザー支援体制の重要性を鑑みると、まだ課題が多くあるだろう。

授業支援ポータル

各大学の事情の紹介と意見交換を実施



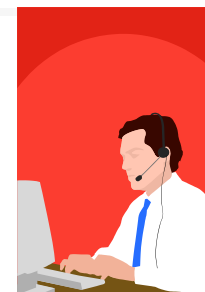
☑各大学とも同じようなシステムを提供しており、課題点も比較的共通しているが、それぞれ特徴のある機能もあり、各大学での機能拡張における参考にできた。

☑今後、大学間での単位互換による連携が進んでいくことを考えると、「6大学共通ポータル」のようなものを検討しても面白いかもしれない。

情報基盤サービスについて

以下のキーワードにてディスカッションを実施

- ・ログインアカウント
- ・ゲストアカウント
- ・メールアカウント
- ・メールサーバーの管理
- ・メールの管理
- ・卒業生へのメールサービス
- ・Google、Yahooの無料サービス
- ・ホスティングサービス



⇒「大学」という多くの人が入り出す組織ならではの事情に悩む。

☑IDやメールアドレスを発行するには、人の管理が必須！

⇒様々なタイプの職種・学生パターンにどこまで対応できるかが課題。

☑少子化が進む中、大学業界では卒業生の校友活動は今後さらに重要視される(卒業生の子供の入学啓発・生涯学習講座などの促進のため)

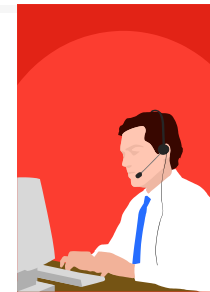
⇒しかし、卒業生数は年々増えてゆくが、対応しきれぬのか。

また実際、大学の卒業生への期待と卒業生自身のニーズとはどのくらいマッチしているのか。(大学だけの独り歩きになっていないか。)

情報系職員の育成方法

以下のキーワードにてディスカッションを実施

- ・各大学の事情の紹介
- ・採用方針
- ・情報系職員のキャリアパス
- ・委託と専任の切り分け
- ・新入職員へのリテラシー浸透策について



☑今後、「情報技術」の高度化が進む中、一般の職員だけで対応していくことが難しくなりつつある。

⇒専門職(SE)の採用や委託・外注も促進すべき。

⇒企画・管理(職員)と技術(専門)との切り分けが必要。

☑「情報」分野で働く職員には専門知識が求められるが、大学の採用方針・研修体系とマッチしていないのが現状。

⇒今後のジョブキャリアローテーションを円滑に行うためにも、

現在情報系職員でない職員に対してもある程度の教育・養成が必要。

⇒専門職採用を実施してプロを育成。



アンケート回答結果

- 交流プログラムの実施期間＝4～5日
- 1日のコマ数＝1日3～4コマが適切
- 適正人数＝5名（1校1名）
- 公開プログラムの時間＝2.5～3時間
- 自由意見では、「役に立った」という意見が多かった
- LMS、e-learning、経営情報システムなどについて情報交換をさらに進めたいという意見が見られた。
- ユーザー部門の方の参加を呼び掛けてもよいのではないかという意見も見られた。



まとめ—今後にむけて

- 1週間その大学に通い、その大学の環境を肌で感じることに意義があると思われる。
- テーマ別のグループディスカッションを実施したが、いろいろな問題提起があり、交流プロジェクトでとりあげたテーマを、今後、サミットのプロジェクトのひとつとして取り上げてもらい、さらに掘り下げた課題解決につなげていければよいのではないか。
- ユーザー部門にも広く門戸を開放し、大学全体の情報環境の発展に寄与する機会にしていけるとよいのではないか。